

## 「禁じられた映画」

ルイス・カナレス 著  
渡辺 貴代子 訳

私は2つの目的で映画を見る。娯楽のためと経験を学ぶためである。好きな映画はビデオで幾度も見る。小さいスクリーンの前で楽しい時間を過ごすほかに、好きな映画ジャンルは本で勉強する。最も最近の収穫は、John C. Tibbett と James M. Welsh の “The Encyclopedia of Novels into Film” (1998) と Dawn B. Sova の “Forbidden Films” (2001) である。

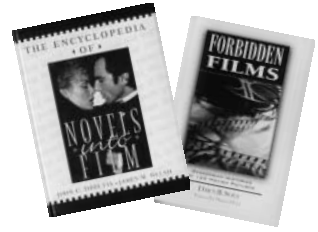
“The Encyclopedia of Novels into Film” は、ブラジルの Jorge Amado や Jane Austen、Thomas Mann、Franz Kafka など、著名な作家の小説の映画化された作品の研究書である。この記事のために選んだ “Forbidden Films” にも、脚本によって有名になった脚本家と同じく、小説が映画化された作家がリストに上げられている。

Dawn Sova はさまざまな理由によって禁止された映画を、125本選びだした。性的、社会的、政治的、宗教的、その内容の激しさで禁止された作品である。いくつかの映画は完全に上映禁止にされ、あるものは、公開される前に特定のシーンがカットされたり書き直されたりした。監督のプロフィールも付録で付けられている。

それぞれの研究は4つの部分に分けられている。フィルムクレジット（キャストを含む）内容の要約、検閲の歴史、さらに参考資料のリスト。スペースの関係上、私は映画製作者と検閲官の闘いを3作だけ選んでみた。

一つは Luis Buñuel の伝説的映画 “L'Age D'Or” 『黄金時代』(1930)で、性的、社会的、宗教的内容のために上映を禁止された。最も急進的な映画監督の1人として知られる Buñuel は、その経歴のなかで検閲官と幾度も争っている。“L'Age D'Or” は Buñuel と超現実主義者の画家 Salvador Dali によって脚本が書かれ、組織された宗教を攻撃する内容で、脚本家の社会に対する断固たる批判が表現されている。

1930年に上映されたとき、モラルを欠いているという理由で非難された。フランスでは、劇場の前でカトリ



ック教会と右翼の圧力団体が抗議した。抵抗は暴力的になり、その結果49年の間、上映が禁止された。1979年になって、ローマカトリック教会が評価を下げたため、フランスそしてアメリカで公に上映された。

それが公開されたときを考慮すると、“L'Age D'Or” はスキャンダルだった。今日なら眉をひそめることもない。それは示唆に富む作品であり、私のお気に入りの1つである。

教会の観点から見て、宗教的に不遜な内容だったために禁止された映画はその他に、“The Last Temptation of Christ” 『最後の誘惑』(1988)がある。ギリシアの作家 Nikos Kazantzakis の小説を映画化したもので、アメリカのみならず世界中で、大騒動を引き起こした。1948年にギリシアでこの本が出版されたとき、著者はギリシア正教会から破門された。1960年に英語に翻訳されると、アメリカでも酷評された。

映画監督 Martin Scorsese は、1983年に Kazantzakis の小説を映画化する計画を立てたが、多くの「汝することなかれ」に直面し、1988年の完成を見るまで、彼を苦しめた。映画館で公開される前後に、宗教団体はイエスが普通の人として描かれ、神の存在として描写されていないことに対して抗議した。イエス・キリストを「最後の誘惑」に導く最後のシーンは、最も論争的になった。イエスは神に遣わされた天使によって、自分は救世主ではないと告げられ、十字架から下ろされる。そして普通の人として普通の人生を送ることを受け入れ、Mary Magdalene と結婚式をあげ愛を交わす。この夢あるいは空想が消えると、イエスは誘惑を拒絶して神の子として十字架に架けられて死んでいく。

極端な暴力シーンを描いたために禁止された作品に関しては、Steven Spielberg の “Amistad”